

各部企画展示

絵画部
「新しい眼」 - 若手作家の挑戦状 -
全国7ブロックから推薦された若手作家26名による企画展
● 出品者によるギャラリートーク
5月3日(水)午後1:00 ～ 2階 絵画部企画展示会場

版画部 「版画部会員有志による小品展」
太子額限定 3階 版画部展示室

写真部 「いろいろいろいろ」
会員・準会員の女流作家13人による目と心でレンズを通しての自己表現を本展作品とは違う作風にて展示
2階 写真部展示室



関連行事

第97回国展シンポジウム
5月4日(木・祝)午後1時～午後4時30分 3階 講堂
※定員を超えた場合はご入場いただけないこともございます

第17回トークイン 「聞こえますかアートの声」
5部門の実作者と対話していく鑑賞会 ※事前申込制。詳細は国展ホームページで
5月7日(日) 午後1時30分～午後3時40分 各部展示室

自然保護・社会福祉のための
チャリティー販売
国展会期中に国画会5部門の有志による作品の販売をおこない売り上げを寄付しています 3A奥、彫刻部のみ1D奥



美術の春

国展 97 絵画 版画 彫刻 工芸 写真

国立新美術館 (東京・六本木)

展示室 1A、1B、1C、1D、2A、2B、2C、2D、3A、3B 野外展示場 A、B、C、D

2023年5月3日(水)～5月15日(月)
午前10時～午後6時 (入場は閉会の30分前まで) ※5月9日(火)休館
最終日午後2時閉会(入場は閉会の1時間前まで)

一般入場料 ￥1,000 無料日 5月11日(木)
学生及び20歳以下、または障がい者手帳をお持ちの方は無料
※ご来館の際に開館日時等最新情報は国立新美術館のホームページでご確認ください

国画会の沿革と先達の紹介

国画会の成りたち

1918年(大正7年)文展から自由な制作と発表の場を求めて、京都の青年日本画家小野竹喬、土田麦僊、村上華岳、野長瀬晩花、榊原紫峰、入江波光らは在野としての「国画創作協会」をおこし、その定期展の通称を「国展」とした。

創立宣言・・・

「各自ハ各自ノ自由ノ創造ヲ生命トス」
「芸術ノ創作ハ極メテ自由ナラザル可カラズ」
「本会ハ創作ノ自由ヲ尊重スルヲ以テ第一義トナス」

同協会は1925年(大正14年)土田麦僊と交流のあった梅原龍三郎を招き、さらに川島理一郎を加え第1部を日本画部とし、第2部として洋画部(現絵画部)を設置した。(翌1926年が第1回国展に相当)そして1928年(昭和3年)国画創作協会の解散に伴い、第2部は名称を「国画会」として独立し、定期展の通称「国展」もそのまま継承した。

草創期の国画会の果たした野団体としての役割は、福島繁太郎の影響もあり、毎年のようにマチス、ボナール、ロダン、プールデル、バーナード・リーチ、ルオー、モネ、ルノワール、シャガール、ピカソ、セザンヌ等々諸外国の優れた作家たちの作品を特別陳列して世に広く紹介したことが特筆される。この事は内部的に研鑽の資となったのは勿論、対外的にも海外作品に触れることの少なかった当時の美術界には非常に有益な企画でもあった。

以後、絵画部に版画部・彫刻部・工芸部・写真部を加え、5部による美術団体として、毎年*春期に日本最大級の公募展である「美術の春・国展」を開催。創立精神である「創作の自由」をモットーに、個性を重視し多様化する表現様式と新しい世代にも呼応する総合美術団体として、広くファンの支持を得ている。そして2007年(平成19年)に創立以来の会場であった都美術館から、国立新美術館(東京・六本木)へ移り、2016年(平成28年)には90回記念国展が盛大に開催された。

最近の企画から

《1997年～》国展会場にて「自然保護・社会福祉のためのチャリティー」 《2006年》パネルディスカッション「80回までの各部の変遷と国立新美術館における「表現の可能性」について」／80回記念国展キャンペーン「国展を歩く」記念誌「国画会80年の軌跡」刊行／諸記念展開催(「国画会の画家たち展」・「伝統からの旅立ち展」等) 《2007年～》国展トークイン「聞こえますか アートの声・作者の声 作者の心」 《2016年》90回記念国展「90 vs 90+展一見よ国展の底力ー」 《2016年～》国展シンポジウム開催

※戦争激化のためやむなく中止した1945年(昭和20年)、新型コロナウイルスの影響により中止した2020年(令和2年)、展示中止とした翌2021年(令和3年)を除く。

1970年頃の梅原龍三郎 (集英社現代日本美術全集より転載)

近代日本美術の先達

下記に掲げる作家は近代日本美術の先駆者として活躍した先達であるが国画会においても大いに活躍し またその後内外に多大な影響を及ぼしたことも知られている

絵画部 梅原龍三郎 川島理一郎 山脇信徳 大橋孝吉 椿 貞雄 河野通勢 高村光太郎 難波田龍起 宮坂 勝 高橋達四郎 宮田重雄 柏木俊一 久保 守 武者小路実篤 益田義信 山口 薫 青山義雄 庫田 凝 杉本健吉 土田文雄 香月泰男 山崎隆夫 国松 登 林 重雄 伊藤 康 宇治山哲平 曾宮一念 川口軌外 原 精一 須田剌太 井上三綱 松田正平 里見勝蔵 小泉 清 張替正次 彼未 宏 小牧源太郎 藤田吉香

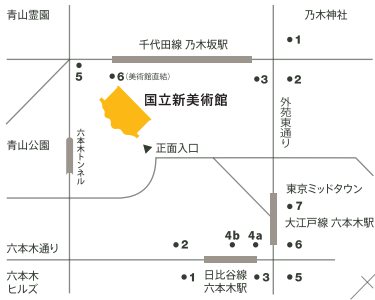
版画部 平塚達一 恩地孝四郎 川西 英 川上澄生 棟方志功 畦地梅太郎 関野準一郎 山口 源 笹島喜平 齊藤清

彫刻部 金子九平次 清水多嘉示 柳原義達 新海竹蔵 山本豊市 関谷 充 千野 茂 桜井祐一 茨木敏夫 鈴木 実

工芸部 富本憲吉 柳 宗悦 濱田庄司 バーナード・リーチ 芹沢銈介 河井寛次郎 柳 悦孝 船木道忠 柳 悦博 黒田辰秋

写真部 野島康三 福原信三 木村伊兵衛 中山岩太 北角玄三 西山 清 入江泰吉 吉川富三 清水武甲 杵島 隆

国画創作協会創立当初の顔ぶれ 前列中央 小野竹喬 中列左から 村上華岳、野長瀬晩花、土田麦僊 後列左から 中井宗太郎、榊原紫峰



会 場 国立新美術館

〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
午前10時～午後6時(但し入場は閉館の30分前迄 最終日午後2時閉会)
アクセス ・東京メトロ千代田線乃木坂駅 青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
・東京メトロ日比谷線六本木駅4a出口から徒歩約5分
・都営地下鉄大江戸線六本木駅7出口から徒歩約4分

巡回展 名古屋展 愛知県美術館ギャラリー

午前10時～午後6時(但し入場は閉館の30分前迄 最終日午後4時閉会)
〒461-8525 愛知県名古屋市中区東桜1丁目13-2 愛知芸術文化センター 8階



www.kokuten.com



@KOKUGAKAI

国画会事務局

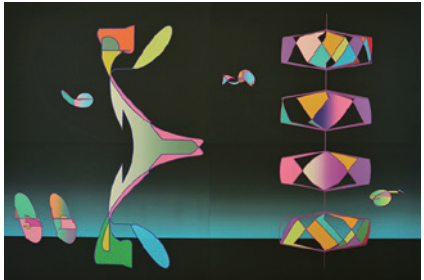
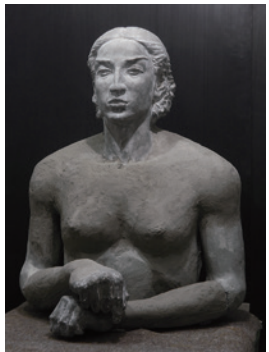
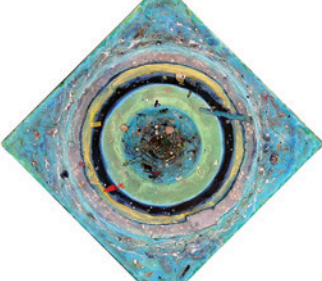
〒105-0013 東京都港区浜松町2-1-16 北田ビル4階
TEL・FAX 03-3438-1470 info@kokuten.com



KOKUGAKAI



KOKUGAKAI



【絵画部】 1. 中山正「アフリカ～方舟を待つ～」 2. 玉山久利「道行抄 ～ 散りぬるを～」 3. 坂本伸市「円相」 4. 山田友子「ETCETERA」 5. 横江逸美「休日」 6. 平野裕明「人の景2023」 7. 吉井章「MIYAKO」
【版画部】 8. 大山恵美子「AFTER IMAGE」 9. 米倉泰民「気流」 【彫刻部】 10. 黒沼令「魄」 11. 吉原周「THE WATCHER」 【工芸部】12. 佐久間藤也「塩釉 鐫手花瓶」 13. 鈴木均治「再生」
【写真部】 14. 荒牧良一「共存」 15. 高野隆一「橋梁空間」

主催 国画会

後援 NHK厚生文化事業団

日本自然保護協会

巡回展

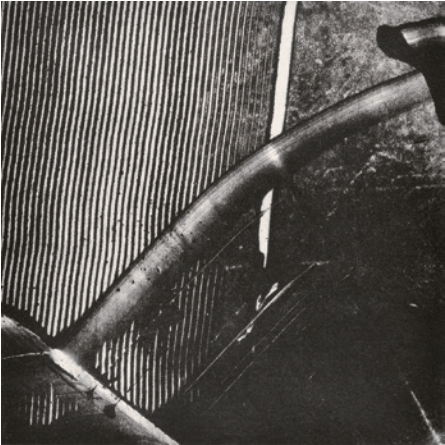
名古屋展 愛知県美術館ギャラリー
6月7日(水)～11日(日)

第96回国展 (2022年) 受賞作品一覧

準会員の賞



1



2



3



4

準会員優作賞

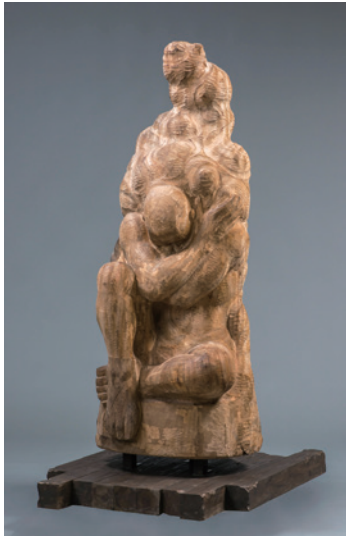
1. 絵画部 米田貴雅『Integration pass』 2. 版画部 鈴木洋子『沈黙 22ーJ』 3. 写真部 松尾香龍『蝶蛾』 4. 工芸部 石田直『杉の森』



5



6



7

各部 準会員賞

- 5 **SOMPO美術館賞**
絵画部 池田愛花里『誰も私を愛さない』
- 6 **版画部準会員奨励賞**
版画部 高野理米子『Ame』
- 7 **彫刻部準会員T氏特別賞**
彫刻部 鹿山卓耶『夜明けを待つ』

国画賞



8



9

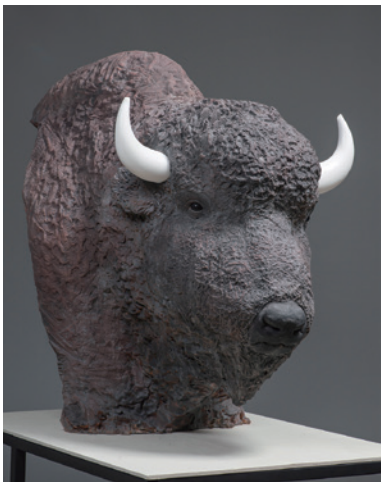
8. 絵画部 中川孝司『月夜に僕は、うごきだす。』
9. 絵画部 嘉陽美彌子『運命』
10. 工芸部 石北有美『SETOUCHI FLOWER』
11. 版画部 黒田明子『華やかに なごやかに』
12. 彫刻部 小林駿『生命』



10



11



12

新人賞



1



2



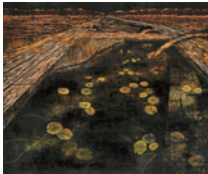
3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13

絵画部

1. 金山波也人
『何処か、楽音の間こゆ』
2. 菅恵子『在宅』
3. 寺島侑子『AZUR II』
4. マスナリリョウコ『bloom I』
5. 松林彩子
『音楽シリーズ “contrasts” 202204a』

版画部

6. 浅井重一『湿原 VI-2』
7. 辻田敬『命』

彫刻部

8. 渡部咲季『Lily』

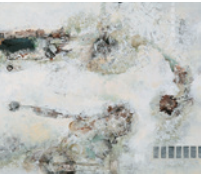
工芸部

9. 岡本ゆう『飴釉陶函』
10. 西川知余『月明かり』
11. 三宅義一『緑大鉢』

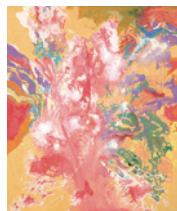
写真部

12. 渡邊愛子『思い』
13. 渡辺久子『汀』

会友賞



1



2



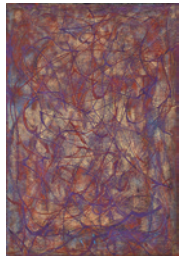
3



4



5



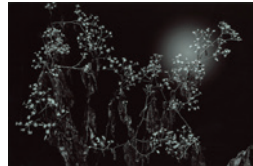
6



7



8



9

絵画部

1. 菊池憲『あしあと』
2. 田中いく子『しちゅう』
3. 出口すみれ『視界・ゼロ (I)』
4. 古畑由理子『ケルト物語 森の倒木』
5. 松枝美由紀『白昼夢 I』

版画部

6. 斎木勝『焉んぞ』
7. 伊藤嘉輝『丸蓋硝子壺』
8. 識名あゆみ『暁のしずく』

工芸部

9. 清水克彦『寂静』

写真部